

平成 25 年 7 月 12 日

お客様各位

株式会社 山喜農園
新潟県魚沼市原 1280-1
TEL. 025-794-2455
FAX. 025-794-4168

E-mail: info@yamaki-noen.co.jp
HP Address: http://www.yamaki-noen.co.jp

球根情勢報告

平素よりお引き立ていただき誠にありがとうございます。

昨日 (H25 年 7 月 11 日) は、私達の結婚記念日でした。

昨日まで愛知/岐阜方面に出張しており、帰りに 35 年来取引いただいている名古屋の小川克己様から『これ、お土産』、と言って頂いた岐阜産のハムのお土産が『これが結婚 21 周年のプレゼント?』という風に家内に言われてしまいました。とりあえず笑っていたから良しとしようと思います。(苦笑い? 小川さん、助かりました。ありがとうございます。)

1 ヶ月ほど前、結婚指輪を修理に出したんです。17 号から 22 号にサイズ up してしまいました。奥さんのサイズ変更は書きません…。

ここ 1 ヶ月は『山喜試験栽培』『展示会』『説明会』に明け暮れ、忙しすぎて何も考えられない状況でしたが、頭と身体と気持ちを切り替えて、通常業務に戻りたいと思います。

大勢の皆様に来社いただきました。本当にありがとうございました。少しでも皆様のお役に立っているなら、それが最もうれしいですし、試験栽培展示をやっていてよかったと、役職員共々『この次』につなげていくモチベーションを保っていけると思いました。

*本当は情勢報告に書きたい事、遠回しの言い方では無く、本当に思っていることを全部伝えきれたらなあ～。

直接会って話をしても伝えきれない事が、**いっぱいになり過ぎてます。**

『これはうまくないなあ～』『これではまずいんだよなあ～』と思う事を直せない・直さないのは、『まずいですよね～…』。

『今でしょ!』という言葉がはやり言葉にある様ですが、まさしく『今』やらなければならない事がなんなのか解っていたら実行しなくてはいけないなと思います。

2012 年南半球産百合球根

A. H/L. A 日本全体の球根輸入量 推定 4,300,000 球

適正量でしたか? やや多すぎたような気がします。

O. H/O. T 日本全体の球根輸入量 推定 23,600,000 球

適正量でしたか? やや多すぎたような気がします。

2012 年 4 月以降 2013 年 3 月期までに起きた事をじっくり分析しましょう。『花の流通』『花の消費』『百合切花の生産流通』『百合切花の消費』等、今までの流れとは違ってきている様に見えます。

*2010 年産オランダ産から 2011 年オランダ産で取扱球数

日本の球根輸入量の減少は約 1,200,000 球でした。(当社は△1,300,000 球)

*2011 年産南半球産から 2012 年南半球産での取扱い球数

日本の球根輸入量の増加は約 600,000 球でした。(当社は+200,000 球)

リーマンショック、東北大震災という 2 つの大きな事件を乗り越え、超円高が是正されつつある状況の様です

が、『百合全体のやや過剰感』はまだ解消されていなかったのかなあとと思います。

景気が上がる時が一番花が売れにくい時なのだそうです。苦しいけれど頑張るしかありません。

2012年オランダ産百合球根

A. H/L. A

A. H/L. A 日本全体の球根輸入量 推定 36,000,000 球

適正量でしたか？11年/12年対比で10%減少している様です。
(約4,000,000球減。まだ輸出業社分析。正確には分かりません。)

2013年4月中旬以降～2014年4月上旬までに流通する国産A. H/L. Aの切花流通本数は10%弱減少する予定です。

(13年南半球産が大幅に増加しなければ…。第1回聴き取り調査では約4,600,000球で前年比8%増。まだ確定ではない。ちなみに8%増とは、約350,000球増加。11/12年オランダ産の減少を踏まえれば…大丈夫？)

しかしながら、13年4～6月期のA. H/L. A切花価格が前年比改善している、という情報は入ってきていません。流通本数が減少しているのに切花価格の回復が起きない…。

これはどういう事なのでしょう？

鉄砲百合/L. 0

鉄砲百合/L. 0 日本全体の球根輸入量 推定 2,500,000 球～3,500,000 球 (12年産)

そろそろ、九州・四国・本州で切れる『日ノ本』より、生産流通量が増えてきている？

この他、

- * 『日ノ本』 沖永良部島による切花生産 (冬場中心)。
- * 『日ノ本』 九州、四国、本州による切花生産。
- * 新鉄砲百合 (夏場中心)。
- * 加えて、外国から鉄砲百合切花が百～二百万本輸入されている。

この切花品目の全体の動きを把握しようとするのは今の所出来ない様な気がします。関わる団体間の関連性が弱い為、どうやって品目の流通計画性を高めていくのでしょうか？(結局、産地単位で？)

A. H/L. A 同様、この鉄砲百合についても個人消費(量販/専門店)・業務(量販/葬儀/専門店)の割合を知りたい。同じ百合でも、A. H/L. Aと鉄砲百合、そしてO. H/O. Tでは使われ方が相当違うはず！

A. H/L. Aについては、日本の百合切花農家/日本の百合球根業社とも、もう一度認識を改めるべきだと考えております。

咲かない花を流通させる仕組みはやはり間違っていると思う。

計画ありきの生産販売流通を実行しなければ花の消費は、絶対生産流通数が減少しても、品目の人気の安定化は無い様に感じます。

皆で一緒に考えましょう！！

O. H/O. T

仮に、12年オランダ産総輸入数が、107,500,000～108,500,000球だったとしたら(約6%減。減少率はこれよりさらに大きくなると考えている輸出業社もある。まだ輸出業社分析で、正確には分かりません。当社の場合も5.8%減。)、A. H/L. A/Longi その他の切花用球根と、ドライセル用の球根を除くと、O. H/O. T系の切花用球根は、64,000,000～65,000,000球くらいとなります。

これに南半球産のO. H/O. T系流通数が加わるわけです。(13年南半球産第1回聴き取り調査約23,600,000球。前年比横ばい。まだ確定ではない。)

少なすぎるような気がしますが、これが実態です。

約 88,000,000～89,000,000 本の国産 O.H/O.T 切花+約 11,000,000 本の輸入 O.H/O.T 切花、(輸入本数はもっと多いが、輸入鉄砲百合切花を除きます。) 合計 99,000,000 本～100,000,000 本の O.H/O.T 切花が流通する計算となります。(採花率 100%はありえませんが…。)

このオランダ産 O.H/O.T 球根 64,000,000 球/65,000,000 球が多いのか、少ないのか判断が付きません。切花価格が農家の採算レベルに到達しなければやはり多過ぎという事なのでしょう。

結局、A.H/L.A/鉄砲百合同様、個人消費(量販:専門店)、業務用(量販:葬儀:専門店)比率の見極め。それぞれのニーズが求めている品質、及び価格帯の見極めが重要なのでしょう。

私自身『イメージ』は持っていますが、ここでは書けません。

一緒に考えていきましょう!

マロとソラ VOF で、ブラックノズを確認しました。その中の 1 ロットではブラックノズ率はかなり高い様です。申し訳ありません。

12 年産オランダ産では、今後の切花作型のボリューム・草丈不足を心配しています。(なにせ日本は暑すぎる!)

2013 年南半球産百合球根

掘り取りが進んでいます。L.A の欠品割合はほぼ確定しています。(既に報告済み。) 近日中に船積みが始まります。

O.H/O.T 系の掘り取り選別が進んでいます。大きな欠品報告は今の所入ってきておりません。例年より作況結果報告のペースが遅い様です。

N.Z 産の作況は良さそうです。

C.H 産については情報が不足しています。

他のアジア諸国が、N.Z 産に追加注文を入れ始めた様です。C.H 産の追加注文が入り始めたという話はまだ入ってきていません。

重要度の高い品種でも欠品よりやや供給量にゆとりがある状況になっているように感じています。もうしばらくしないと、はっきりした事は言えません。

*Plamv 問題に対しての各輸出業社の考え方に差が出てきている様に感じます。気を付けないと…。

*13 年、当年中にソラ社の経営者が変わります。今まで以上の良い会社になってほしいです。(ニコ・ハフ氏は、残る様です。良かった。)

2013 年オランダ産百合球根

『差し替え』の栽培面積表が発行されました。別途送付いたしますし、細かい報告は、後日行います。**(既に HP には載せてあります。)**

『栽培面積』は、減少しています。十分な減少量かどうかはわかりません。(個人的にはもっと減るべきだと考えています。Plamv 問題+国際消費状況から。)

栽培面積の減少とは別に、生産状況についてはこれまでの所のオランダは、一言で言えば『百合球根生産にとっては寒過ぎ』だったと思います。(7 月に入ってようやく平年並みとなってきたとの事。)

9 月第 1 週には現地確認に入ります。

今の所、球根価格=現地での取引相場価格は下がってきていません。

南半球産以上に、輸出業社毎に、Plamv 問題に対しての考え方の差が大きくなっているように感じます。(輸出業者数が多いから…。)

考え方の差は、情報量の差でもある様です。
そして最後は、『**取扱量が減少しても仕方がない**』、という決断をする勇氣だと思います。

3~5年後綺麗になるから、という先の話をして、今をごまかしている輸出業社は、今年/来年納品する球根の事を棚上げにしているように感じます。

『今でしょ!』

6月第1週以降、1ヶ月間の間に20人のオランダ人が当社試験栽培温室調査に入っていました。津南の球根生産圃場も確認いただきました。(育種業社・各輸出業社・球根農家の最新品種が定植/栽培されているからです。)

ここ2~3年、新潟県内の1作養成球使用型、切花産地の品種更新が遅れていた、最大の原因がPlamvです。(それを避けて、導入を控えていた!)

養成圃場視察を行った際、12人のオランダ人は全員が、一畝一畝、特に自分が供給した新品種を中心に確認していました。Plamvが少しでも発症していたロット/品種については、それが他社供給の球根でも、その球根を供給した会社がある場にも、『TAKASHI、全部抜いてしまえ!』と、結構感情的なコメントをしていました。

それだけ真剣なのだと感じました。逆にうれしかったです。

Plamv 関連の技術情報と実体情報が当社に供給される質・量ともに、他輸入業社と比べて多くて早く感じていたし、戸惑ってもしました。(明らかに情報量が違うように感じていたし、輸出業社間での考え方の差が日本側に伝わっていないように感じていたから。)

『養成球取り扱い割合が多いからだったのか!』

やっと理由がわかりました。(それに対応しない輸出業社って、逆に何を考えているんだというお話です。)

この12/13年産での対応の差が、14年以降、大きく取引関係の変化を生むのではないかと感じています。

ある大手輸出業社コメントでは、『日本の輸入業社の考え方も、12年と13年では明らかに変わってきている。』『TAKASHIの緊張感に皆が近づいてきている。まだ若干その視点に差がある様だが…。』との事です。

わかっている事・わからない事・わかって対応する事では、全然意味が違いますものね!

ところで、オランダの育種会社・球根農家はそれら日本に入らなかった養成球をどのように扱っていたのでしょうか?(そのまま開花球生産に廻してたの??どうするの??ちゃんと教えて!!)

7月13日現在 約24,600,000球 発注確保しました。 前年比78.6%
約21,600,000球 皆様からご注文を頂きました。 // 69.1%

大変ありがとうございます。

Plamv問題・厳しい経済情勢の中では、目標としていた**7月期『栽培面積表発効前』**までに最低7~8割という数字には近づけたかなあと感じています。

これらの数字は対日市場主要輸出業者の受注状況よりも、10ポイントほど先行していたとの事です。(なにせ在庫を作りましたからね…。)

参考	発注率	受注率	12/13年産
A.H/L.A/Longi/L.O系	67.5%	54.1%	7月13日現在
O.H/O.T系	88.0%	81.5%	
合計	78.6%	69.1%	

*当社が6月20日前後くらいまで、他よりも受発注率が先行していた理由は、輸出業社側からのコメントを総合すると、

- 1) 刈アバラカ確保率が高い。(再び栽培面積30%減。遂に16haになった。開花球面積は、約12ha前後！)
 - 2) Nリン養成分面積が、約4ha前後との事です。この畑からTYS/VOFTYS養成分球が主に供給されます。)
 - 2) 新品種取扱比率が高い。
 - 3) コンディション別取扱いに対しての意識が、比較的、広く普及しているようだから。
- と上記の3つの理由なのではないかとの事。

それらが理由なら、『お客様』皆様の理解が進んでいるという事になりますから、本当にありがたい話です。(球根価格変動も少ないですすね！)

実際、単年度単年度の結果に一喜一憂しないで、5年/10年の平均的結果で判断するならば、例えば、12年産でシャリアMAKが輸付き過ぎても、シャリアEVR(当社の場合、P.O社・J.W社・V.Z社で計14ロット)の結果が良くても、(ここ2年くらい調子が良い。結構自信が付いてきました。)
『13年産は別』『13年の天候は？作況は？』と考えますよね？中長期的視点で良質ロットを見つけていきましょう！

コンディション別の販売を始めてから、考えを深めるポイントが増えたのは、各々の切花農家/産地が、どの作型を目指して、どのような出荷先販売目標価格帯を想定するのか、『一緒に考えられる様になった事』です。(球根屋なら初めから考えていかなきゃいけない事ですけどね…。)

これは南半球産も同様です。

これって良い事だと思いませんか？

当社試験栽培についての報告

A.H/L.A系

オレンジ系 ハトパーク・エプリー・カジノロイヤルの使い方を全国的に普及させましょう。(R.トリニティの栽培面積は、約53%も減少してしまいました。まあ、南半球産もありますかね…。)

パーティダイヤモンド、インディアンダイヤモンド、クリア、セラダ、リスカーなど日本市場での重要度の高い品種の使い方をもう一度確認しましょう。球根の買い方も検討しましょう。(全て栽培面積が減少しています。これ以上減らない様にしたい。これらの品種の中で南半球産がある程度生産されているのは、セラダだけです。)

赤系 有望種が出てきています。(トマル・ブレイクアウト・バーボンストリート etc. 導入作型注意。)

ピンク系 有望種が出てきています。(ポードウォーク・フェアバックス・アルブフィア・アルバタックス etc. 導入作型注意。)

白系 有望種が出てきています。(メルザ・ホトサカント etc. 導入作型注意。)

黄系 C.デジールの最良品質球根農家/約6ha生産をしていた球根農家が、球根生産を辞めてしまいました。栽培面積が、12.3haも減った事(△42%)に加えて、この農家が球根栽培を辞めた事実が大きいのです。

エルティボの12/14、14/16サイズの使用方法を研究しましょう。(メシコに負けない様。)

ミノの14/16サイズの使用方法を研究しましょう。(メシコは使わない様です。)

エルティボより、やや早生だが草丈が伸びる、昨年までは奇形花の多かったジボネ。今年は奇形花が無かった。(エルティボも最初は奇形花があったのに、無くなった。)

A.H系のトライセル用品種の開発速度を上げなければ…。その中から営利栽培家向きが…。

*日本向けの品種の栽培面積減少は衝撃的。(だが、ある程度は需給バランスに合わせて計画的だとも言えないか?) 減ったり増えたり上下動の激しいG.タイクーン・シユビル・ファンギオ・トレザー、それらの品種を使っている市場の性格が良く出ているとも思いました。

鉄砲百合

新しく変わったことが沢山あります。(特に隔離栽培温室にて。)

既存品種も球根の作り方でイメージが大きく変わってくることに気づかされました。

0.T系

白系 総合的にザンバジを超える白を見つけられたか? 今年の試験では? です。(ザンバジが完璧だと言うつもりはない。)

ここまでの数年間に、バシェンダ・ココサ・レクナ・ヒッポ・ノズ・マサリ・オハ・ティ・モータン・アイスキューブ・テルフィニ・フィオン・フランソワ・テイセント・パールクイン・ファストラダ・メタム・フォーエバー・サロノ・アゴスティニ・トペカ・ゲートウェイ・その他、試行ナンバー品種約十数品種、計約30種類強の試験栽培を実行しています。

来年の国産化した球根からどんな試験結果が出るかで判断していきたいと考えている品種はいくつかありますが、『切花輸送箱に20本以上入って作業性が良く、蕾が傷まない品種』を見つけるのは大変そうです。

加えて花シミ問題…。

育種会社に対して一言。

球根農家が生産性を追求して白0.Tを望むなら、切花農家の生産性も同時に考えなければ無理ですよ! 結局球根が売れなければ作っても…。

ピンク系 ワールドフラワー社から良さそうなのが出てくるみたい。

マクリー系は出荷切前で採花すると色が全然出ない。(6月20日以降採花作型~何月頃からちゃんとした色が出ますかね~?)

V.Z社は、ホルモン濃度障害が多いので綺麗にして頂かないと…。(使えそうなものがあるのもつたない。何とかしてほしい。)

マック社品種は、テーブルダンスを超えなければいけない。

重要度の高い花色なのでなんとか使えそうな品種を見つけたい。(頼むから箱に20本入るポリウムに留めてほしい。)

赤系 全社共通、日本の出荷切前で切って、本来の色が出ないのはダメ。ラルゴ・バーリンゴ・カボネくらいかなあ。(市場の皆さんが咲き過ぎと言わなければ…。もうちょっと使えそうなものが増えるかなあ…。)

黄系 イローウィン・セラ・カテナ以上の作業性品種が出てこない…。この色はちゃんと品種本来の色が出ますよね!

オレンジ系 オレンジのイローウィンみたいな品種が出てきます。良いと思います。コロハートは綺麗です。テラルは今年1年では判断しません。来年の試験結果を待ちます。

複色系 ニフの完成度を超越する品種はなかなかありませんが、スターGタイプや、ベイクォッチタイプ作業性改善タイプだとか。結構良さそうでした。

*Vletter社で丈が伸びるタイプと伸びないタイプを分けてきた。これはすごい進化だと思います。

***今年のO.T品種試験栽培の期待度は高かった。**

今回当社試験栽培調査に入ったオランダ人は、そのほとんどがO.T系の調査を中心に行っていた。各育種会社/輸出会社が出荷切前での発色と作業性/輸送性をどこまで改善してもらえるのか、要望をしっかりと繋いでいかないと…。

*やや勘違いしている育種会社がいた様に思います。結局、育種会社は世界の球根農家に対して、何haのライセンスを販売したのかの競争ばかりしている。そんな事では世界の百合切花消費は伸びてきませんよ！)

O.H系

各社が発表してきた赤系・ピンク系・白系とも素晴らしい品種が多かった。

頼むからオランダの球根農家の皆さんにはライセンス(球根栽培権/販売権)を買ってほしい。

*Vletter社のピンクはすごい。作業性も良さそう。(これらの発表新品種以降、Plamv問題が減少してくると考えます。)

*Vletter社は、O.H系でも丈が伸びるタイプと伸びないタイプを分けて発表してきている。南半球産を意識している。そしてオランダ切花市場冬場用品種の開発？

*V.Z社の白/ピンクはすごい。小輪系O.Hも良い。枝の角度が素晴らしい。複色でなくて単色へのこだわりも良い。

*ワールドフラワー社の晩成系白/ピンクはすごい。(どれもシラ並みの到花日数…。夏場枝折れない？もしそうなら素晴らしい。)カブラカの上向きが出るかも？花シミ出なければ凄いいけど…。

14/16・16/18サイズでも商品性の高い品種が出てくるかも？

*MAK社の品種は使用作型を絞りやすい。(逆に使い方を間違えると大変…。)

*Vletter社は、白のO.H系ではV.Z社、ワールドフラワー社、MAK社からかなり引き離されているように感じる。どこまで追いつけるか？(リアル血を抜いた品種が出てきているみたい…。)

*Vletter社のピンクは総合的に素晴らしい。他育種会社は使用目的を絞って、使われ方を絞って対抗してくるように見える。

*オジガル社、マール社も同じような戦略みたいです。(作型毎に品種特長を使いこなしていければ、良い品種があるように思う。)

*10数年ぶりに14/16・16/18サイズの使えるO.H系を探しました。D,J社に幾つか出てくるかも？

今回、当社試験栽培に来社いただいたお客様の傾向は、『切花の栽培現場を見せてよ!』という方が**少なかった**。(オランダ人含む。)

代わりに、**試験温室にいる時間が例年に比べて圧倒的に長かった**。(夜11時まで照明が消えない日が…。)

1回だけの訪問では無く、複数回の視察を行った人がものすごく多かった。(結果、延べ人数での来社数は過去最高だったかもしれません。数えてないのでわからないですが…。山喜タカが良く出ました。ありがとうございます。)

来社していただいたオランダ人は、1回1時間半くらいの短い調査を含めれば、

6回訪問	1人
3回訪問	2人
2回訪問	13人
1回訪問	4人

こんなことは18年間では初めてでした。

18年ぶりの温室内試験栽培/初めてのヒートポンプ使用試験栽培は、開花時期のご案内・オープンデーの日程調整等、うまくいかなかった点多々ありました。(ごめんなさい。)

来年以降はさらなる品質向上と情報精度を上げられるよう頑張ります。よろしくお願いします。

同一定植/同一管理を行い、(NO.3 試験区については、球根栽培コンディションも均一化。)最も特徴的だった結果をご報告します。

昨年、11年産ワング産試験で、コンディション毎に、最大10日間以上開花日数の違ったビビアという品種は、12年産でも、その差は昨年同様に、10日間以上の開花日数差・草丈・輪付きでも差が付きましました。**(これらのコンディション別特長をメリット/デメリットとして使いこなして行けば…。)**

TL球根の低温期(促成作型)での定植は良くない事が確認でき、高温期で良い仕事をする事も表現できていたと思います。**(目の前にある結果から、逆の事を見極めなければいけません。)**

昨年10日間以上開花日に差のあったビビア(計5コンディション)が、開花日の差を、1日間に短縮されました。**(いわゆる当社試験栽培 No.3 魚沼産箱内養成球根にて。ワング人曰く、『世界一の均一性を整えた試験栽培』=『育種会社が冷や汗をかかされる試験栽培』。)**という事が、証明される事例だと思いました。

*当社試験温室においては、**ソボノ**の開花日が**6月26日**、**カブラカ**の開花日が**7月3日**、日長の長い時期での10日間の差は、皆さんの作型ではどのくらいの差となりますか?

温室の中の栽培だと今までと違った事が、色々見えてきます。

昨年、Plamvが発症していた品種では、国産化が図られ、**ヒトボツ**で**除湿温室栽培を行った結果**、発症が大きく抑制されました。(発症がはっきりと確認された品種は、開花終了ステージまででも数品種しか無かった。昨年は20品種30品種も発症していたのに…。)

昨年と今年を見比べられたある日本の輸入業者の方は、「本当にPlamvが入っていたあの球根なのか?信じられない!」というコメントすら出ていました。

4月5日~6月10日までの期間の灌水量は、昨年比1.5倍だった様です。これもポイントだと思いました。箱内で開花させて、花シミのする品種も激減しました…。それでも発症する様な品種ならまずいのでしょうか…。(昨年までの試験方法ではこの差がクリアでした…。)

*J.Wセクトは、4品種とも他コンディションより早く咲きました!

来週から秋の試験栽培準備開始です。

ぜひお越しください。百聞は一見にしかずです!

P. S.

ある日本の切花農家のリクエスト/質問にお答えする形で、

98/99年登録、2000年に発表となった『リアル』という品種は、その当時衝撃的な美しさと、『初作ルボツ』というキャッチコピーで大きく注目されました。以降、育種者本人であるVletter社だけでなく、多くの育種者は(他の育種会社を当然含む)、リアルを交配親として使いました。

したがって2004年以降に各社が選抜発表してきている白系品種には、50%・25%・12.5%程度リアルの血を引いている品種が多いのです。(それくらい衝撃的な美しさだったという事でしょう…。)

結局、花シミの問題をすべて品種と気温・湿度のせいにするには無理がある様な気がします。

高温期出荷作型だけでなく、『植物体内温度変化が原因で発生する、体内水分量変化で発症してしまう、と考えられる花シミの発症確率』。それが低いと考えられる品種である、ハリア・カブラカ・クリスタルカ・ペンファン・ルン・エバースくらいしか、夏場の作型は生産出来なくなってしまいます。

結局、カブラカが夏場に優秀と言われるのは、これも一つの大きな理由なのでは?

ピソファンガーを露地栽培作型、夏期作型のみで生産、何故この茎の柔らかい品種を発表したのか？その理由の一つが、この問題を含む、夏場対策種という狙いだったのです。（まだ確実にできるかどうかの答えは出ていませんが…。）

育種会社がリアルトの血統を引かない品種を発表してくるのはしばらく後となってきます。（例えば、トゥレカ・シルバリオ・パソックホーション etc. 他にもありますか？これらの品種の量が増えてくるのにはまだ5～6年時間がかかる。）

*注意：リアルトの血を引いていなくても、花シミの出やすい品種があるのと同様に、リアルトの血を引いていても出ない品種もある様です。作型・作期・生産地域にもよって変わってくる。（ウイルスの話をしているんじゃないですよ…。）

この花シミ問題は、切花農家の努力だけではなく、市場/仲卸/買参人の方々の商品管理に対する理解と協力抜きでは解決できないと考えます。

皆で対策を考えていきましょう！（この点については、今後良く打ち合わせていきたい。）
夏場でも高級感のある白O.H系を生産流通させるために！（既に出来ている産地はすごいですね！）

よろしくお願ひ致します。

詳細はお問ひ合わせください。

森山 隆



<http://www.lily-promotion.jp/>
私共はLPLJの趣旨に賛同し
協力・応援しています